3.11 生きる ことが

自然の恵みを授かる術を身につけて
質素で心豊かな生活を続ける。
これ以上の誇りはないと思います。

岩手県大槌町吉里吉里
特定非営利活動法人 吉里吉里国
芳賀正彦

私は、この未曾有の大津波による被害を受けて
町を再建するんだったら、津波の前の大槌の町よりも、
もっともっと昔の豊かな自然、海、山、川、
そういうのを視野に入れた復興計画・活動を
みんなで続けるべきだと思っています。
そのために、里山、手つかずの、真っ暗な下草も生えない
長いことほったらかしにされていた人工林に入って森林整備をする。
目標は、アザラシとかオットセイとかクジラが
近海に姿を見せてくれていた頃の豊かな吉里吉里の海、
三陸の海の復活を目指しています。
海や山、自然の恵みを授かる術を私たちは身につけて
子ども、孫の代までその技術を
身につけなければならないと思っています。
自然の恵みを授かる術さえ身につけていれば、
必ずその背中を見た子どもたちは、
自分自身に誇りを持って、山、海、自然の中で暮らすことに
喜びを持って、必ずここに残ってくれると思うんです。
勉強のために都会に出ても、若いうちに
また戻ってきてくれると感じています。
北東北の岩手県の三陸沿岸の片田舎で
暮らしている人、暮らしていこうとしている人たちが
常に心得ておかなければいけないことがひとつあります。
それは、貧乏じゃないんだけど、質素な暮らしを続けることです。
贅沢なものはないけれど、
たとえば里山から出た薪で暖をとるような、質素な生活。
質素な日々を送りながら、その中で、一日、頑張れた、
いい日だったと、心豊かな日々を送ることです。
これ以上の誇りはないと思います。

2012年1月18日

WA WA PROJECT

3.11 SUN ⟶ 3.25 SUN
12:00 ⟶ 19:00　入場無料
VENUE: 3331 Arts Chiyoda 1Fメインギャラリー

3331 ARTS CYD

主催：わわプロジェクト（一般社団法人非営利芸術活動団体コマンドN）
協力：3331 Arts Chiyoda／経済産業省
映像機材協賛：三菱電機株式会社
音響機材協賛：三菱電機エンジニアリング株式会社

東日本大震災復興支援プロジェクト展

復興リーダーからのメッセージと復興支援に加わった70組のアーティスト・建築家・活動者の多様なプロジェクト

wawa.or.jp

「つくることが生きること」
東日本大震災復興支援プロジェクト展

津波の爪痕がいまだ残る被災地。一方で、3.11以前と変わらない日常に戻っていく非被災地。震災から1年となる2012年3月、「どこで・だれが・何を想い・どのような活動を行っているのか」をあらためてみつめ、復興に向けて創造力を持って表現・活動する人たちの想いと活動内容を共有する展覧会を開催致します。

会期：2012年3月11日（日）～25日（日）会期中無休 ／ 開場：12:00～19:00 ／ 入場無料 ／ 会場：3331Arts Chiyoda メインギャラリー

被災地の復興リーダーが語る映像展示

3.11直後から現在までの想いを、15名の復興リーダーたちが語ります。42インチの大型モニターによる展示は、等身大で映し出された彼らと向き合うことができます。

自分たちの街、文化、そして生活を自らの手でつくりはじめた被災地のリーダーたちの声をしっかりと受け止めてください。
そして、彼らの活動に共感していただけたなら寄付をして下さい。
寄付はそのまま、彼らの活動の原動力となっていきます。

わわプロジェクト
ディレクター中村政人


PH:Takeshi HOSOKAWA


PH:wawa project

1 山田八幡宮・大杉神社（岩手県山田町）
佐藤 明徳

「10年かかっても必ずもとの姿に戻す。祭りの復活が復興の証」

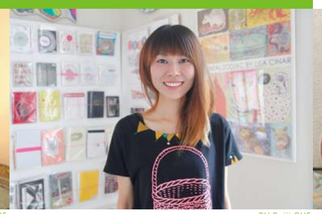
山田八幡宮と大杉神社からなる『山田祭』は町内最大のお祭り。震災で大杉神社は流失したが、町外へ避難している住民を呼び戻すためにも祭の復活が望まれている。

2 特定非営利活動法人 吉里吉里国（岩手県大槌町吉里吉里）
芳賀 正彦

「犠牲者に恥ずかしくないような生き方を。悔いものは何もない」

町民の多くが職を失う中、瓦礫を薪にして販売するプロジェクト『復活の薪』を開始。現在は、森林整備を行いながら"自然の中で暮らす喜びと誇り"に溢れた町づくりを目指す。


PH:Reiji OHE


PH:Reiji OHE


PH:Izuru ECHIGOYA


PH:wawa project

3 合同会社 顔晴れ塩竈（がんばれしおがま）（宮城県塩竈市）
及川 文男

「故郷に埋もれている"宝"を掘り起こし 町の人々が誇れる塩ミュージアムをつくりたい」

塩づくりの聖地・塩竈で昔ながらの製法で塩づくりを行う。震災後はいち早く活動を再開し、町の文化・宝である塩づくりを後世に残すための"塩ミュージアム"を構想。

4 ビルド・フルーガス（宮城県塩竈市）
高田 彩

「人間が持つ発想力や機動力を信じて 一瞬一瞬、楽しい時間と記憶づくりを」

人とアートが出会う場として『ビルドスペース』を運営。震災後は、被災地域の子どもたちや、仮設住宅に入居するお年寄りを対象とするワークショップなどを行う。

5 一般社団法人MMIX Lab（宮城県仙台市）
村上 タカシ

「"もの" が語り、桜が示し続ける。後世に語り継ぐことで、助かる命がある」

アートと地域文化を結び、創造的芸術活動を行う団体。津波でねじ曲がった公共物を残した震災を後世に伝える『3.11メモリアルプロジェクト』他を始動。

6 株式会社 鈴木酒造店 長井蔵（福島県双葉郡浪江町・山形県長井市）
鈴木 大介

「すべてを失い、バラバラになった町。酒をつくることで "生きた証" を証明したい」

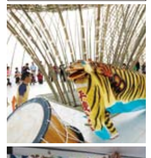
江戸時代末期から続く"日本一海に近い酒蔵"。蔵の流失に加え、原発事故により町に戻れない状況の中、"いつか浪江に戻る"という強い想いを抱きながら酒造りを再開。

■鹿野順一｜いわて連携復興センター（岩手県釜石市）
■山崎 純｜ボルコロッソ（岩手県大船渡市）
■鈴木千夏｜まるのて（宮城県塩竈市）
■菅原 誠・佐々木洋裕｜AD BOAT PROJECT（岩手県盛岡市／釜石市）
■梶原千恵｜石巻ワンダー横丁（宮城県石巻市）
■矢部 亨｜株式会社矢部園茶舗（宮城県塩竈市）
■多田一彦｜特定非営利活動法人 遠野まごころネット（岩手県遠野市）
■後藤建夫・甲谷泰成｜（宮城県石巻市桃浦）
■末永早夏｜地域活性プロジェクト【MUSUBU】（福島県いわき市／東京）

アーティスト、建築家、企業などによる復興支援・活動の展示

3.11から1年、「私たちは何をしてきたか？」「私たちはこれからどこへ向かうのか？」約70組のアーティスト・建築家・デザイナー・活動家・企業・NPO・新聞社などによる、多様な活動を時間・テーマ・地域を軸に展示。震災から学んだことを振り返り、これからの日本のあり方について考えます。

ISHINOCAKI 2.0



1 ISHINOMAKI 2.0

石巻の若い商店主たちと商店街再生を目指す。再生可能な物件を使い、次世代エネルギーの体験施設や復興バーなど、商業や文化の観点から復興し未来の石巻をつくる。



2 伊東豊雄建築設計事務所

くまもとアートポリス東北支援「みんなの家」

「みんなの家」は住まいを失った人々が暖をとり、飲み、食べ、語り合える憩いの空間。それは「精神の安らぎを得る場所」であり「復興について語り合う拠点」でもある。



3 遠藤一郎（未来美術家）

「GO FOR FUTURE」

「GO FOR FUTURE」のメッセージを発信し、人々に夢を描き込んでもらう「未来へ号」に乗り各地をまわる。大船渡「やっぺし祭」、釜石や福島で「未来龍大空凧」などを行う。

4 滋賀県立大学 陶器浩一研究室＋高橋工業

「竹の会所 復興の方舟」

気仙沼市本吉町の港を見おろす場所に、被災地に生える竹約1,000本を伐採し、直径17mの集会所を地元住民と学生とともに建設。



5 椿 昇（現代美術家）

「VITAL FOOT PROJECT」

アーティスト・椿昇の阪神淡路大震災の体験から、小型トレーラー付き自転車をマイクロドネーションを呼びかけて製作、現地に届ける。クリーンエネルギー世界への提言でもある。



6 畠山直哉（写真家）

「陸前高田」

津波により大きな被害を受けた陸前高田市出身の写真家が、以前に撮っていた懐かしい故郷の姿のスライドショー「気仙川2002-2010」を、震災後のいくつかの写真と対にして展示。



7 HEART MARK VIEWING 実行委員会（代表 日比野克彦）

「HEART MARK ♥ VIEWING」

被災地を想う気持ちを形にしたい人の支援。制作物を届け、被災者の気持ちの支援。ふたつの気持ちを繋げていき、互いが次の行動を起こす"コト"の支援。それがハートマークビューイング。



8 富士フイルム株式会社

「富士フイルム写真救済プロジェクト」

津波で汚れた写真やアルバムをきれいにし、持ち主へ戻すボランティア支援プロジェクト。各地での洗浄指導、道具の提供と、自らボランティアを募り洗浄も行う。写真とともに町の記憶も繋ぎ止める。



9 ユイノハマプロジェクト＋わわプロジェクト

「浜っ子としてこれからも、in 桃浦」

"浜"を感じ、みんなが集える"場"を現在建築中。仮設住宅が建てられず、住民の多くが町を離れざるを得なかった石巻市桃浦にて"場"や"コト"を通じて「浜っ子のこれから」をお手伝いするプロジェクト。

■Archi＋Aid■ART-AID: Basel Project for Japan■ACT FOR JAPAN■Arigato from Japan■新井信幸＋東北工業大学新井研究室■安東陽子＋岡安泉■五十嵐太郎研究室＋彦坂尚嘉＋はりゅうウッドスタジオ■一般社団法人モア・トゥリーズ■宇宙大使☆スター■笑顔の再生「モバイル・すまいる」プロジェクト■女川さいがいFM■NPO法人アートNPOリンク■L.E.D. project（代表 間宮 尊）■LLP tanaproject■オフィス木木■開発好明■かせつの輪＋HEAD研究会仮設リノベーションワーキンググループ＋わわプロジェクト■門脇篤、さきらボランティアコミュニティ■Creative for Humanity■くるみの会×すみた夢灯りの会■公益社団法人シャンティ国際ボランティア会■小森はるか、瀬尾なつみ■斉藤道有&気仙沼高校写真部■佐藤ジン■（財）日本手芸普及協会■GK設計■SHARE FUKUSHIMA実行委員会■Stottegruppe For Nord-Øst Japan（東北日本支援グループ）■新津保建秀■住田住宅産業株式会社■せんだいメディアテーク■仙南芸術文化センターえずこホール、いわき芸術文化交流館アリオス■ZENKON湯プロジェクト■タネマキプロジェクト■竹内昌義＋馬場正尊＋三浦秀一＋鈴木伸治＋槻橋修■東京大学グローバルCOEプログラム環境デザイン研究室■東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）■東北復興支援機構TRSO■遠野市、東京大学高齢社会総合研究機構、岩手県立大学社会福祉学部、リンデンバウム遠野■トッパングループ■中島佑太×飛びだすビルド！（ビルド・フルーガス）■新潟大学岩佐研究室■2011日本造園学会関東支部学生デザインワークショップ平野チーム■日建設計震災復興ボランティア気仙沼チーム■庭JAPAN■NOSIGNER■平野愛智■平間至■PRAY+LIFE■プロジェクト FUKUSHIMA!■細川 剛■マイタウンマーケット実行委員会■前見文徳×基真由美■南町・柏崎青年会、気仙沼復興商店街■ミミオ図書館、VOLCANOISE■村上タカシ■村山修二郎■wah document　他（2012年1月27日時点）

入場料金の表記のない催事は無料でご参加いただけます。

SCHEDULE

3/11 SUN 13:30～17:00 2F 体育館 定員なし　イベント

3.11 Arts Action

展覧会出展者による活動プレゼンテーションやワークショップ、被災地と東京を繋ぐUstream中継の他、一般公募による約30組の活動も紹介します。

■みんなで手をつなごう！
3.11つながれ地球プロジェクト
3.11への想いを「手をつなぐ」という
誰でも出来るアクションで、世界中とつなぐ！
■モヤモヤ会議
ワークショップ　講師：藤 浩志（美術家）
時間：15:30～17:00　定員：30名


藤浩志

出演者：開発好明（アーティスト）、
近藤七ドリ（ACT FOR JAPAN 発起人）、椿 昇（現代美術家）、
富士フイルム写真救済プロジェクト、ユイノハマプロジェクト 他

「3.11 Arts Action」参加者募集！



「3.11 Arts Action」では、ジャンルを問わず復興支援活動を行う個人／団体／グループを募集しております。わわプロジェクトのWebサイトをご覧の上お申し込みください。

応募受付締切：2月25日（土）必着

※一般公募による出展者は約30組を予定しております。また、出展者は審査の上決定致します。

wawa.or.jp

12 MON 11:00～13:00 1F コミュニティスペース 定員80名　対談

「アーキエイド×コミュニティデザイン－地域の再創出」

被災地に対する建築家および建築系研究室の支援活動『アーキエイド』の思想と、地域をつくる担い手をデザインする「コミュニティデザイン」の思想が、どのように結びつき共鳴するのか。
ゲスト：小野田泰明（東北大学大学院教授）×山崎 亮（studio-L 代表／京都造形芸術大学教授）

小野田泰明 東北大学大学院教授 × 山崎 亮 studio-L 代表／京都造形芸術大学教授

14 WED 18:30～20:30 1F コミュニティスペース 定員80名　上映会＆トーク

「民族文化映像・基層文化・日本の未来10原則 vol.1」

日本各地の暮らしを50年間撮り続けてきた姫田忠義氏の映像を上映し、歴史を越えた日本の文化＝基層文化から、今求められる日本の未来について手がかりを探る。
ゲスト：姫田忠義（民族文化映像研究所所長）
聞き手：小林 一（NPO法人アジア企業家村推進機構常務理事）、
清水義次（株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役）、中村政人（3331Arts Chiyoda／わわプロジェクト ディレクター）


鎌仲ひとみ


姫田忠義

17 SAT 1F ラウンジ＆コミュニティスペース 上映会 各回定員40名 トーク 定員80名　上映会＆トーク

「六ヶ所村ラプソディー」（監督：鎌仲ひとみ）

使用済み核燃料再処理工場が建設された青森県六ヶ所村。そこで暮らす人々を見つめたドキュメンタリー映画を上映。被曝と原発の問題を追い続ける映像作家・鎌仲ひとみ氏によるトークも開催します。
ゲスト：鎌仲ひとみ（映像作家）　入場料金：1000円（トーク含む）
上映会（ラウンジ）11:00～13:00　13:15～15:15　19:00～21:00　トーク（コミュニティスペース）15:30～17:00

17:30～18:30 1F コミュニティスペース 定員80名　対談

「いま、福島で映画を撮るということ」

岩井俊二プロデュース『FUKUSHIMA DAY』の桜井監督と、第62回ベルリン国際映画祭フォーラム部門正式出品作品『無人地帯 No Man's Zone』の藤原監督が、撮影映像を交え福島で生きることの真を問う。
ゲスト：桜井亜美（作家／映画監督）× 藤原敏史（映画作家）

桜井亜美 作家／映画監督 × 藤原敏史 映画作家

18 SUN 15:00～15:30 1F コミュニティスペース 定員80名　イベント

「八幡大神楽」－岩手県下閉伊郡山田町に伝わる郷土芸能

岩手県山田町の人々が大切にする秋祭り『山田祭』に奉納されてきた郷土芸能のひとつ「八幡大神楽」を、多くの支援に対する感謝の意を込めて山田から子供たちとともに来訪し、披露します。

15:45～17:30 1F コミュニティスペース 定員80名　トークセッション1

「被災地の復興リーダーが語る東北の現状とこれから」（仮称）

自分たちの町に息づく文化を大切にしながら、
次の世代へつなげようと活動する復興リーダーたちによるトークセッション。
佐藤明徳（山田八幡宮・大杉神社／岩手県山田町）
芳賀正彦（特定非営利活動法人 吉里吉里国／岩手県大槌町吉里吉里）
及川文男（合同会社 顔晴れ塩竈／宮城県塩竈市）
鈴木大介（株式会社 鈴木酒造店 長井蔵／福島県双葉郡浪江町・山形県長井市）



上：及川文男／下：鈴木大介


岩手県下閉伊郡山田町「八幡大神楽」

20 春分の日 TUE 13:00～15:00 1F コミュニティスペース 定員80名　トークセッション2



「仮設住宅で始まっていること」

震災から仮設住宅の建設・運営における新しい動きについて概観し、今後の仮設居住のあり方について考える。被災地で実際に活動する建築家などによるプレゼンテーション。
モデレーター：新堀 学（建築家／わわプロジェクト プログラム・ディレクター）
ゲスト：島原万丈（仮り住まいの輪）、浅田英紀（GK設計）、
芳賀沼 整（はりゅうウッドスタジオ）、小泉秀樹（東京大学）、岩佐明彦（新潟大学）他

16:00～19:00 1F コミュニティスペース 定員80名　トークセッション3

「あたらしい石巻をつくる／ISHINOMAKI 2.0」

石巻の商店街再生を目指し、商業や交流の観点から未来の石巻をつくるメンバーが集結。
クリエイティブで多岐にわたるその活動を紹介します。
ゲスト：松村豪太（石巻2.0代表／NPO法人石巻スポーツ振興サポートセンター／復興バーマスター）、
千葉隆博（石巻2.0／石巻工房長）、芦沢啓治（石巻2.0／建築家／石巻工房）、
西田 司（石巻2.0／建築家／オンデザインパートナーズ）、小泉瑛一（石巻2.0 石巻駐在中／オンデザインパートナーズ）他


村上タカシ


宮本武典


中村政人


山内宏泰

24 SAT 13:00～15:00 1F コミュニティスペース 定員80名　トークセッション4

「3.11以降のアート」（仮称）

震災後いち早く、アートを通した支援活動「Japan Art Donation」を設立した窪田氏と参加アーティストを迎え、3.11以降のアートを語る。
ゲスト：窪田研二（インディペンデントキュレーター／KENJI KUBOTA ART OFFICE代表）他 参加アーティスト


窪田研二

16:00～18:30 1F ラウンジ 定員40名　上映会＆トーク

「なみのおと」（監督：濱口竜介・酒井 耕）

津波被害を受けた三陸沿岸部に暮らす人々の「対話」を撮り続けたドキュメンタリー映像作品。監督も来場し、上映後に来場者との対話を行います。
ゲスト：濱口竜介（映画監督）、酒井 耕（映画監督）　入場料金：500円

25 SUN 13:00～15:00 1F コミュニティスペース 定員80名　シンポジウム

「つくることが生きること」（仮称）

東北を拠点に活動するキュレーターやアーティストの多様な活動から導かれる今後の社会を考える。
基調講演：「震災と美術表現」山内宏泰（リアス・アーク美術館主任学芸員）
モデレーター：中村政人（3331Arts Chiyoda／わわプロジェクト ディレクター）
パネラー：宮本武典（キュレーター／東北芸術工科大学主任学芸員／東北復興支援機構TRSOディレクター）、村上タカシ（美術家／一般社団法人MMIX Lab代表）

16:00～18:00 1F コミュニティスペース 定員80名　対談

「被災地を歩きながら考えたこと」

はたして工学で街は救えたのか？ 復興はいかにあるべきか？ 津波の記憶はどのように語り継ぐべきなのか？3.11から1年が経過する現在の展望を語る。
ゲスト：五十嵐太郎（東北大学大学院教授）× 磯 達雄（建築ジャーナリスト）

五十嵐太郎 東北大学大学院教授 × 磯 達雄 建築ジャーナリスト

最新情報はWebサイトにてご確認下さい。 wawa.or.jp

WAWA project とは？

「わわプロジェクト」は東北各地で復興支援活動を行っている人々と支援したい人々をつなぐためのアートプロジェクト。
被災地域の活動家たちと緊密に連携し、活動拠点を整備。さらに新聞やウェブを活用した情報発信を行う。
"わ（個）と わ（個）"を結び、持続可能なコミュニティの実現を目指しています。

わわプロジェクト事務局（一般社団法人非営利芸術活動団体コマンドN）担当／里村、松渕
TEL/FAX：03-6240-1608　直通：080-4150-2550　E-MAIL：info@wawa.or.jp

会場：アーツ千代田 3331｜3331Arts Chiyoda　〒101- 0021 東京都千代田区外神田 6-11-14　TEL：03-6803-2441（代）



